



▲落合恵子さん

3月21日、東京・代々木公園で「さようなら原発全国集会」(さようなら原発1000万人署名市民の会主催)が開かれた。降りやまない雪と寒さの中、全国から1万2000人が集まった(主催者発表)。

主催者あいさつで落合恵子さんは「独裁としか呼べない安倍政治にこれ以上つきあえない。福島のみ、喪失から目をそらし、沖縄を苦しめ続け、命に鈍感な政治のどこを信頼しろというのか」と訴えた。

福島からは、片岡輝美さん(脱びばく子ども裁判の会共同代表)、あらかぶさん(被ばく労働者)、長谷川克己さん(自主避難者)が発言。長谷川さんは、郡山市から静岡へ当時妊娠中だった妻、5歳の長男と「自主避難」した。創業からかわってきた仕事も辞めた。「子どもたちの中に入った放射線が身体を侵していくのでは、自分が代わる方法はないか。この子たちを置き去りにどんな発展をめざすのか」…という自作の詩には胸を打たれた。



▲長谷川さんは「なかったことにしたいと思っているのは、私たち自身ではないのか」と問いかけた

3.21 さようなら原発全国集会 雪にも負けず 脱原発を訴える



▲逢坂誠二さん

韓国からは、イ・キョンジャさん(核再処理実験阻止30日連続実行委員長)が「核のゴミを処理できないなら原発の稼働はやめるべき」と発言、安倍政権に抗議する国会前のデモにも参加したと話す。寒さにふるえる参加者たちは笑顔に。

原発ゼロ自然エネルギー推進連盟事務局長で弁護士河合弘之さんは「映画監督の河合です」と、まず会場をわかせる。「大間もだが、裁判結果に一喜一憂することはない。私たちは必ず勝つ。この7年間、原発ゼロで東京は停電したか。省エネも進んでいる。世界の潮流は自然エネルギー、日本は遅れを取っている。日本経済新聞もNHKも報道している」と元気の出るスピーチ。

逢坂誠二衆議院議員(立憲民主党エネルギー調査会会長)は、「野党で共同提出した『原発ゼロ基本法案』を何としても成立させたい」と強く訴えた。

デモは中止となったが、道行く人に働きかける姿が随所で見られた。



▲河合さんは「世界の流れは自然エネルギーだ」と強調した



▲片岡輝美さん



▲韓国からも連帯のメッセージ。背負っているのは「核のゴミ」入りのドラム缶を模したもの